

平成30年度 第1回 市川市博物館協議会 会議録

日 時：平成30年7月27日（金）午後2時から

場 所：市立市川歴史博物館 2階 講堂

出席者：石山秀和、宇田川純一、遠藤行巳、片岡玲子、小嶋亨治、酒井清治、
白井久美子、菅原繁、福岡直子、松本浩和、村松勝美、山崎京美（五十音順）

杉山元明考古博物館館長、西山光生自然博物館館長

考古博物館：岩崎孝雄主幹、笠川賢司主任、近藤孝子主任、

山路直充学芸員、領塚正浩学芸員

歴史博物館：槇峰和也主任、小野英夫学芸員、三村宜敬学芸員、

山岸未来学芸員

自然博物館：金子謙一学芸員

傍聴者：なし

事務局：本日は、お集まりいただきありがとうございます。これより博物館協議会
委員に選任されました方々へ、委員の委嘱辞令を交付いたします。

杉山館長より、各委員へ辞令交付

杉山館長：ただ今ご紹介にいただきました、考古博物館館長の杉山です。4月の人事
異動により、考古博物館館長に着任いたしました。今後ともよろしくお願
いします。本日は平成30年度第1回目となります博物館協議会を開催するに
あたり、委員の皆さまにはご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、
菅原繁委員、宇田川純一委員におかれましては、新たに当協議会委員になり
ましたことから、今後ご尽力を賜りますよう、よろしくお願いいいたします。

各委員挨拶

事務局：菅原委員・宇田川委員ありがとうございました。それでは、市川市立博物
館の設置及び管理に関する条例第12条第1項の規定により、協議会の議長
は委員長が行うこととされています。これより先、酒井委員長に議事運営を
お願いします。

酒井委員長：これより平成30年度第1回市川市博物館協議会を開会します。

なお、開会にあたりまして、本日は12名の委員の方々に出席いただい
ておりますので、市川市立博物館の設置及び管理に関する条例第12条第2項
の会議規定、委員定数の過半数以上の出席という条件を満たしておりますの
で、この協議会は成立していることを報告します。

本日は、報告事項1件、協議事項1件、自然博物館企画展見学となってい
ます。また最後に、次回の協議会日程について確認します。

それでは、次第(1)報告事項について、事務局より説明をお願いします。

(1) 報告事項 「平成29年度館別事業実施状況及び自己評価について」報告

事務局 : 「収集・保管及び調査研究」における主な成果・課題について。成果として、市史編さん事業と連動した形で市内の自然貝層の調査を進め、見込み通りの成果が得られたこと、借用資料の整理や寄贈図書 of 整理登録が実施できたことなどが挙げられる。課題としては、資料のデジタル化が中々進んでいないこと、各種研究会に参加できていないことなどが挙げられる。これらを踏まえ、自己評価は「B」とした。

「展示事業」における主な成果・課題について。考古博物館における展示室のLED化、歴史博物館における企画展の実施、自然博物館における来館者対応など、各々成果が上がっていると感じている。しかし、一方で魅力ある博物館展示に向けて、マンネリ化の防止に努めていく必要性を3館とも共通認識している。これらを踏まえ自己評価を「B」とした。

「市民向けの教育普及事業」における主な成果・課題について。成果として、博物館講座や講演会において、概ね80%の出席率を確保できたことや、リピーターが増加していることなどが挙げられる。一方で、講演会や講座の内容についてさまざまな要望に対応できるよう改善・工夫が求められていることや、フェスティバルの雨天時の対応等の課題も挙げられるので、自己評価は、「B」評価とした。

「学校関連の教育普及事業」における成果・課題について。各館とも、小学生向け体験学習では、来館や出前授業により、多くの学校にご利用いただき、好評であった。さらに、教員研修においても、支援・サポートが概ねできていた。しかし、希望の日程が重複してしまうこともあり、来館を断念される学校もあり、今後の検討課題といえる。そのため、「B」評価とした。

「地域連携の教育普及事業」における成果・課題について。公民館講座や博物館友の会主催の見学会等を通して実施し、好評を得た。課題としては、公民館講座を実施する際、内容調整等で時間を費やしてしまうことが挙げられる。自己評価は「B」とした。

「運営」における成果・課題について。考古・歴史博物館だより、自然博物館だよりの発行により、事業内容をアピールしてきてはいるが、建物等の老朽化が進んでおり、施設維持に必要な経費を確保し、さらに、博物館の事業等についても積極的にアピールしていく必要があると考えている。博物館を運営していく上で、いくつかの課題はあるが、今後も市民のニーズに応えるとともに、親しみやすく、利用しやすい施設となるよう努めていこうと考えている。自己評価は「B」とした。以上です。

委員より意見等

白井委員： 展示内容のマンネリ化の防止策について検討中とあるが、平成30年度には、どのようなことに取り組んでいるのか。

事務局： 【考古博物館】

常設展示室内での大きな変更点はないが、毎年、館務実習生の成果を伝える展示を1階のホールで行っている。今年度は体験講座でも実施している組紐に関する資料を展示している。また、5月からは収蔵の縄文土器の展示、10月以降は、速報展「外環自動車道の遺跡」の実施を計画である。

【歴史博物館】

現在、常設展示室内で市川にゆかりのある民俗学者、本山桂川に関する展示を行っている。秋以降は、小学校3年生の体験学習と連動した「発見 体験 昔の暮らし」という企画展を毎年開催している。

【自然博物館】

大きな変更点というものはないが、生き物を展示しているということもあり、マイナーチェンジではあるが、日常的に改善に努めている。例えば、カブトムシに関しては、餌場の工夫やさなぎの見せ方などを変更した。

福岡委員： 学校関連の教育普及について、来館を希望する学校の中には、断ってしまっている学校があるということだが、具体的にどの程度断っている状況にあるのか。

また、今後の修繕計画についてどのような見通しを持っているのか。

事務局： ・ 学校関連教育普及についての回答

【自然博物館】

29年度に関しては1、2校。28年度以前を振り返ると、5校程度断ることもあった。市内の小学校4年生を対象として少年自然の家での宿泊体験の中で体験学習を実施しているが、週末の開館にあわせ、学芸員の週休日を平日に設定しているため、断っている状況にあった。現在は、改善に努めている。

【考古博物館】

小学校6年生を対象とした縄文体験学習を行っており、学校からの要望としては、4月中旬から下旬に希望される学校が集中する状況にあるため、日程が合わず断念される学校も多い。今年度からは、電話での申し込みからFAXでの申し込みに変更し、こちらで日程調整を行なうようにした。そのため、1日に2校対応するような形での提案が可能になり、より多くの学校側の要望に応えられるようになった。

【歴史博物館】

29年度は、出張授業の依頼について2校断った。そういった要望に対応

するための十分な職員数が確保されていない状況にあるため、原則的に来館していただいている体験学習を推奨している。校長会を通じて広報誌、周知に努めている。

- ・ 今後の修繕計画についての回答

【考古博物館】

開館46年になり、市内の発掘資料を収蔵することができない状況になっている。考古博物館としては、調査を進めたもの、文化財として受け入れたものなどを含めても、ハード面として限界が来ていると考えている。

展示室に関しては、平成28年度に、企画展の実施と関連付けて弥生時代に関する展示替えを実施した。現状としては、このような形での実施を取っているが、館自体の老朽化も進んでいることもあり、今後の課題といえる。

【歴史博物館】

状況としては、考古博物館と同じような状況にある。部分的な展示替え等は行うことはできても、抜本的な解決には至っていない。

【自然博物館】

差し替えが可能な設計になっているため、適宜、パネルや標本等の変更を行っている。近年は、LED化を優先しているため、滞っている状況にあるが、まもなくLED化も完了するため、再度実施していく方針である。

バックヤードについては、動植物園の管理等内にあるため、大きな問題はない。収蔵庫は24時間、空調を管理する必要があるため、1度修繕を実施している。

福岡委員： 学校等の要望に応えるために、職員の努力で賄っているようであるが、働き方改革が求められる中、芳しくない状況にあるのだなと感じた。

博物館の施設の維持・修繕については、外環自動車道も開通して地域にも大きな変化が見られてくる中で、ますます博物館の使命が深まってくるように思うので、中長期的な計画をもって取り組んでほしい。

(2) 協議事項 「平成29年度館別事業実施状況に対する外部評価」

事務局： 先ほど(1)で説明した総合評価に対する協議会としての外部評価について、協議会委員の皆さまからの意見及び評価をお願いします。

委員より意見等

石山委員： 歴史博物館事業実施状況評価の収集・保管及び調査研究事業「資料及び古写真のデータベース化」の自己評価がCとなっている。評価としては致し方がないとしても、次年度の課題について、資料整理に要する時間が不足しているとある。今後どのような見通しをもっているのか。

あわせて、教育普及事業「歴史博物館講座」について、担当学芸員の退職

もあり今後の実施は難しいとある。このような状況について、次年度以降どう対応していこうと考えているのか。

事務局 : 3月に近世を専門に研究していた非常勤職員が退職し、4月から中世を専門とする非常勤職員を採用したが、学芸員の仕事と言うものは、来たばかりですぐに対応できるようなものではない。ある程度キャリアをつめば、また何かを実施できるかもしれないが、非常勤という形での雇用形態である限り、先を見通して考えていくことは難しい。また、歴史博物館には常勤の学芸員は1人おらず、さまざまな事業に対応していく中で、資料整理に十分な時間を割けない現状にある。

石山委員 : 今年だけ良ければいいのであれば、不必要な意見であったかもしれないが、次年度への課題が出されているのであれば、先のことも考えていってほしい。学芸員というものは、1年や2年で成り立つ仕事ではない。長期的な見通しを持って取り組んでいく必要がある。よりよい博物館を目指して、運営していってほしいと思う。

酒井委員長 : 退職後、人員の補充があったということでしょうか。

杉山館長 : 担当する時代区分としては違うが、1名採用している。しかし、非常勤としての採用であるため、ご指摘の通りあやうさはあると考えている。今後の博物館運営のことを考えると、正規採用の常勤学芸員を確保していくことは目指していきたいと考えている。状況としては厳しいが、教育委員会とも協議していきたい。

小嶋委員 : 考古博物館実施事業状況評価、教育普及「学校巡回展、出前授業」の次年度への課題として、学校巡回展の開催する学校の担当教員の関心により対応に差があったと、学校関係者としては大いに反省している。校長会等でも周知していきたいと思う。

学校側としては、市川市内の物であっても、学区と関係ない資料だと児童の関心を引きにくい。できれば、地域に関連した資料を展示していただくことはできないか。

事務局 : 昨年度実施した巡回展については、地域に関連しない資料を展示させていただき、考古資料と関わりのない地域にも関心を深めていただこうと考えて実施した。今後の在り方については、検討していきたいと思う。

村松委員 : 多くの評価を「B」としているが、人員等の現状も踏まえると十分すぎるBであると思う。これだけの事業を実施していくには、人手が足りているようには思えない中、努力されていると感じる。どれも、「A」に近い「B」なのではないか。

酒井委員長 : 考古博物館の展示事業及び教育普及事業の多くが概ね好評であったのであれば、「A」評価でもよいのではないか。

松本委員 : 収集・保管及び調査研究事業「資料及び古写真のデータベース化」とあるが、デジタル化したものについて、アウトプットするようなことは実施しているのか。

事務局 : 調査・研究に関わる資料からデジタル化は進めているが、アウトプットは特に行っていない。

松本委員 : データベース化について、何かアウトプットする形を整えていくと予算もつきやすくなるのではないか。本来であれば博物館に来なければ見られないものを手軽にみられるようにできれば、博物館の機能も変わってくるように思う。

酒井委員長 : 外部評価について何か意見はありますか。

各委員 : 特になし

(3) 自然博物館 企画展見学

(4) 次回の協議会(開催日程等)について

事務局 : 次回の協議会の日程は、平成31年3月頃を予定しています。

(5) その他

杉山館長 : 市川市北部は、公共施設が限られている地域であるため、地域の方から貸し出しを希望される声が多く届いている。そのため、4月から会議室等の使用(貸出)に関する基準を改めて実施している。

松本委員 : 外環自動車道の開通により、市内からスムーズに来られるようになったが、案内板等が十分ではないため、市外から来られた方がわかりにくいのではないか。

杉山館長 : できれば予算を確保して対応していきたいと考えている。現段階としては、ホームページで紹介している。

山崎委員 : 道の駅いちかわに展示スペースを確保することはできないか。

杉山館長 : 北下遺跡に関するA1サイズのパネルを5枚展示している。3か月間展示することは決まっているが、その後についてはまだ何も決まっていない。

福岡委員 : 現在開催している企画展示の資料といったものは、歴史を知る上でベースになるものであると思う。冊子にしたり、解説リーフレットを用意して見学したりできるものがあればよりよいものになると思う。自分自身もぜひ協力していきたいと考えている。

酒井委員長 : これをもちまして、全日程を終了としたいと思います。皆さま、ありがとうございました。

以上